



「日本のアート産業に関する市場調査 2021」を実施。
日本の美術品市場規模は 2,186 億円。ギャラリーと百貨店で明暗くっきり、全体では 3%減。
美術品の資産性商品として分析するために、アート指数を提案

今年も 6 回目となる「日本のアート産業に関する市場調査 2021」(主催：一般社団法人アート東京、制作：エートーキョー株式会社)を実施いたしました。約二万人を対象とした購入動向調査により、日本全体の美術品市場規模を 2,363 億円と推計。昨年からの減少率は約 8.4%の減少となりました。これは欧米のアート先進国で 20%以上の減少となる中で、限定的な減少幅となりました。

その結果、世界の美術品市場における割合を推計すると、2020 年の世界の市場規模(7.0 兆円)に対して日本(国内事業者の市場規模・2,270 億円)は 3.2%と推計されます。

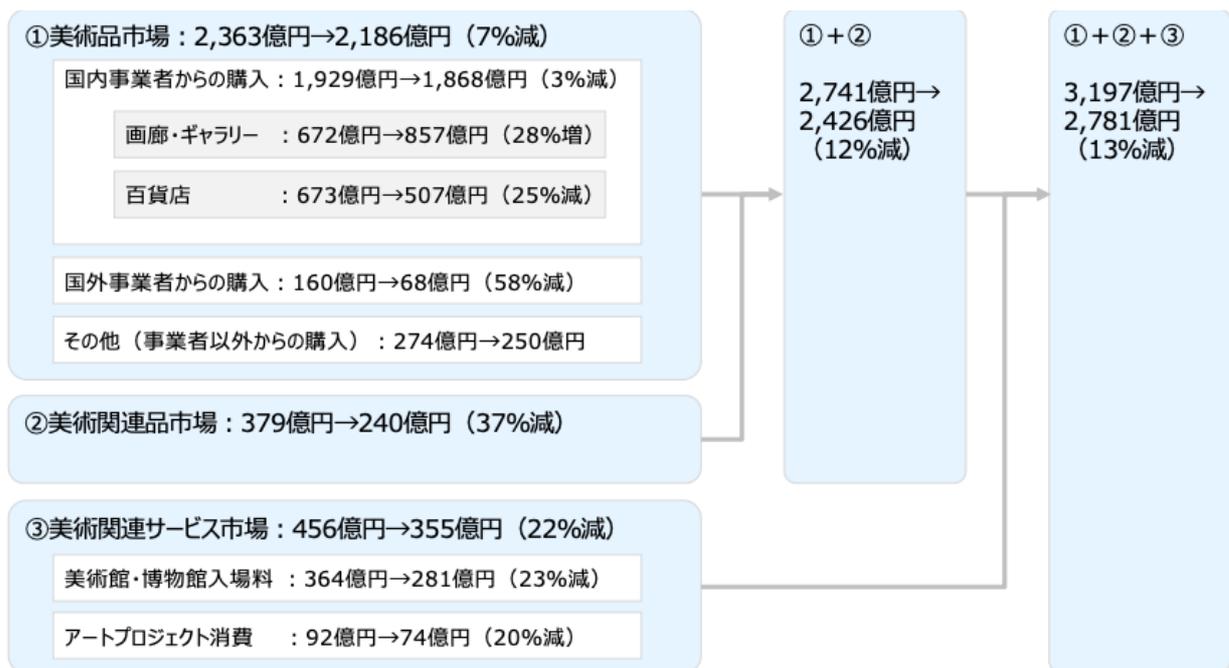
同時に、美術鑑賞と購入の関連性を調査し、展覧会の市場拡大への寄与を検討いたしました。

本調査では、アンケートによる動向調査にとどまらず、過去の美術品の価格動向を調査・分析して、美術品が資産性についても考察いたしました。そして新たに国内アートオークションの売買データを分析し、美術品には、経年による減価するもの(美術工芸品と呼ぶ)、に対して、一定の原資産価値を有し、資産とみなせるものもあることを結論づけました。

第一部①美術品、美術関連品、美術関連サービスの市場規模

アート産業に関する市場規模として、古美術や洋画・彫刻・現代美術などの「①美術品市場」を 2,363 億円と推計。合わせて、グッズやカタログなどの「②美術関連品市場」が 240 億円、美術館入場料や日本各地で開催される芸術祭消費額を含む「③美術関連サービス市場」が 355 億円となり、3つの市場を対象とした総額は推計 2,781 億円となりました。

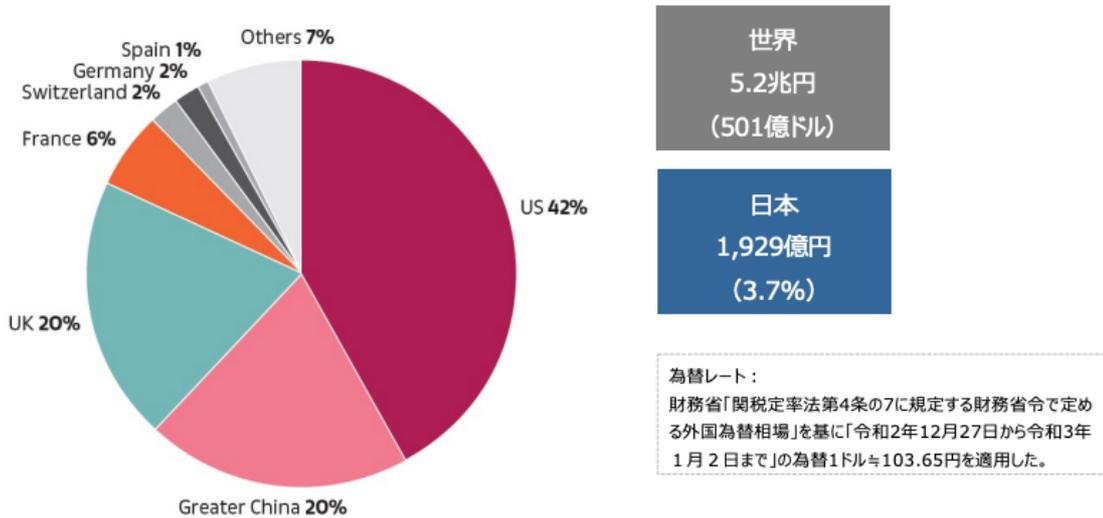
図表 1.アート産業に関する市場規模の全体像



第一部②世界の美術品市場における割合

日本の市場規模の世界全体に対する割合について、2019年では3.2%と推計しておりましたが、本調査の前年国内事業者の市場規模である2,363億円について2020年の世界の市場規模（7.0兆円）に対する割合を計算すると3.7%となり、このコロナ禍において減少が限定的だった日本は、世界でのプレゼンスが上昇したと言えます。

図表2 各市場規模の推移
世界の美術品市場の国別割合（2020年）



© Arts Economics (2021)

出所) Art Basel and UBS_The Art Market 2021

世界の美術品市場調査期間: 2020年1月~12月

出所)「日本のアート産業に関する市場調査2021」エートキー(株)・(一社)芸術と創造

第一部③美術品購入の目的: 高額購入者（3年間で100万円以上）との比較

上述の調査での予測もあったが、全購入者がインテリアやプレゼント目的であるのに対して、高額購入者はコレクション及び作家の支援が目的となっており、高額購入者=コレクター層が順調に成長していることが確認されます。彼らが購入している作品群の今後の値動きによって日本のアートマーケットの成長の方向性が決まります。

図表3 各市場規模の推移

■美術品購入の目的（いくつでも）

(高額購入: n=58)

	全購入者	高額購入
コレクションする	15	50
居住空間に飾る (リモートワークで居住空間を活用している場合を含む)	32	46
気に入って衝動的に購入	29	33
作家を支援する	8	21
自分や家族の美術の知識を深める	6	13
作家と関係を持つ	3	13
店舗・オフィスに飾る	3	8
実用品として使う	20	8
記念品とする	17	8
投資・運用	2	8
プレゼントする	9	4
付き合いで仕方なく購入	6	0
その他	3	4
特に目的・理由はない	7	0

出所)「日本のアート産業に関する市場調査2021」エートキー(株)・(一社)芸術と創造

第二部①試作版アート指数の3作品群の推移

昨年の美術品には原資産価値があるとの証明から、今回は価格データを統計的に分析して市場の状況を把握するための指標をアート指数として提案しました。オークションの価格データの中で売買代金の上位50%の作家をスクリーニングして、年毎・作家群ごとのみなし取得価格を算出しながら、2006年の数値を1000として、「Domestic Art」「Contemporary Art」「Foreign Art」の三つに大別し、算出しました。

図表7 各作品群のアート指数

QUICK Japan Standard Art Index

Domestic Art :

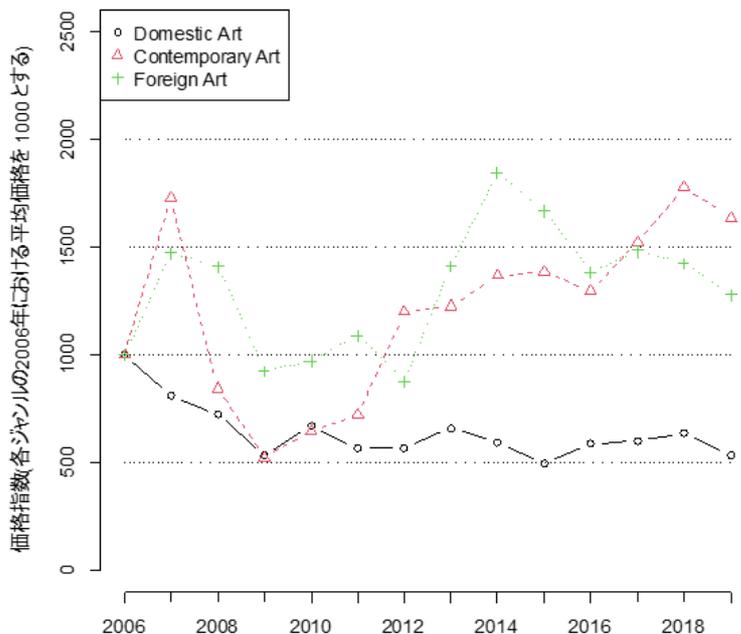
日本国内を中心に流通する流動性のある作家群。国内の市場では流通量があり取引も活発だが、海外市場ではあまり取引がない。

Contemporary Art :

現代アートの作家群(=国内外で流通する作家群)。上記と異なり、国際的に流動性のある作品群となっている。

Foreign Art :

Contemporary Art に属さない海外の作家群。現代アート以外のカテゴリーに分類される国際的に取引のある作品が該当。近代の作品など現代アートと比較すると流通量は多くないが、海外でも取引があり、流動性が十分にある作品が揃っている。



出所)「日本のアート産業に関する市場調査2021」エートキー(株)・(株)QUICK

第二部②試作版アート指数と既存の指数・金融商品との比較 S&P500

試作版アート指数の「Contemporary Art」と株式の代表的な指数である「S&P500」については、強い正の相関が観察されました。2009年以降は上がり調子な点は共通していて、S&P500が先行して2008年、2018年に下がり、後から、2009年と2019年に「Contemporary Art」は下げていました。金融市場に先行してアート指数が動く特徴が見られました。

図表7 各作品群のアート指数

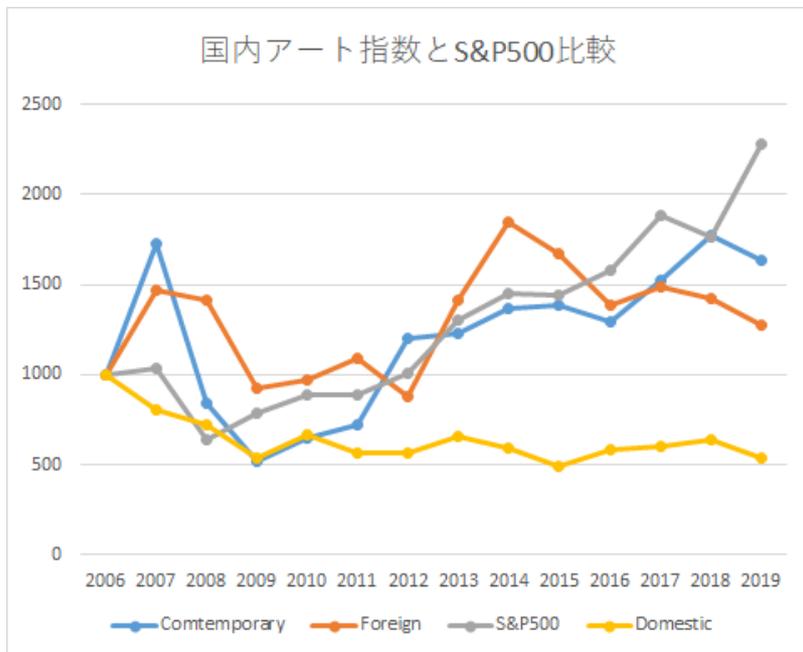


表1 S&P500と各アート指数の相関係数

Comtemporany	Foreign	Domestic
0.76	0.45	-0.35

出所)「日本のアート産業に関する市場調査2021」エートキー(株)・(株)QUICK

我々は、日本のアート産業市場の実態を正しく把握し、今後のアート産業の拡大に向けて、アート事業者向けにとどまらず、アートコレクターなどユーザーへの有益な情報を提供すべく、今後も継続的に同調査を実施します。マーケティング資料としての動向調査に留まらず、商品としてのアートとして、リスク・リターンを計測するために価格分析やポートフォリオ分析など、今後も分野を広げて調査する所存です。調査結果は、国内外のアート産業関係者を超えて、日本のアートマーケットが今後も成長・拡大していくために必要な信用・信頼を得るために、アートコレクターなどユーザーに対して効果的に活用していただけることを目指します。

第一部基本設計

調査方法	インターネットアンケート会社が契約するモニターを対象としたアンケート調査
調査時期	2021年8月20日(金)～8月23日(月)
調査対象	1次調査: 政府統計を基に、性・年代、職務状況(有職/無職)、年収(有職者は個人所得、無職者は世帯所得)を日本全体の分布に近い形で割付 2次調査: 2020年4月以降に初めて美術品を購入した方
有効回答サンプル数	1次調査: 24,959 サンプル 2次調査: 93 サンプル

第二部基本設計

調査方法	国内アートオークション会社での作品落札価格を収集して分析
調査対象	2006年～2019年
調査対象	オークションで取引された作品群のうち、売買代金が上位50%の作家をスクリーニング
対象件数	199,605件

調査概要

調査名称	「日本のアート産業に関する市場調査2021」 “Japanese Art Industry Market Research Survey 2021”
レポート名称	「日本のアート産業に関する市場レポート2021」 “Japanese Art Industry Market Research Report 2021”
主催	文化庁、一般社団法人 アート東京
制作	エートーキョー株式会社
調査設計・分析・レポート作成	一般社団法人 芸術と創造・株式会社QUICK
事業名称	文化庁委託事業「2021年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

日本のアート産業に関する市場調査 web サイト: <https://artmarket.report/>

本調査に関するお問い合わせ マネージングディレクター : 北島 輝一 (キタジマ)

リリースに関するお問い合わせ アートフェア東京 広報担当: press@artfairtoyo.com

〒106-0041 東京都港区麻布台 1-9-12 飯倉台ビル4階 エートーキョー株式会社 (Tel: 03-5797-7911)